

# マイコプラズマ肺炎

## <どんな病気ですか>

マイコプラズマ・ニューモニエという病原体によっておこる肺炎です。普通の肺炎にくらべて、少し年齢が高い4歳くらいから上のお子さんがかかりやすいのが特徴です。特に小・中学生の肺炎の最も多い原因といわれています。潜伏期間は2～3週間くらい。一度かかっても、もう一度かかってしまう人もそれほどめずらしくはありません。流行する年としない年があります。

## <どんな症状ですか>

症状は発熱と咳が一般的ですが、他の肺炎と比べ、コンコンという痰があまりからまない咳が非常に多くなるのが特徴的です。しかし、個人差があり、最初はのどの痛みだけという方もいます。下痢・嘔吐・頭痛・全身倦怠感などのほか、多形浸出性紅斑といった皮膚所見も伴うこともあります。

## <どんな検査が必要ですか>

胸部のレントゲン写真で肺炎の病像を確認することです。肺に単一な淡い陰影が見られます。診断を確定するためには、血液検査でマイコプラズマ抗体を測定し、結果は翌日以降に判明します。この検査は、マイコプラズマ抗体価は病初期には低かったのが、しだいに上昇することで判断しますので、症状が出てすぐに調べても意味がありません。症状が現れてから、4～5日以降に検査することが望ましいと思います。もし、その時に低い値でしたら1～2週間後に再検査することもあります。最近では、迅速検査といって採血して10分程度で判明する検査法もありますが、信頼性など多少の問題があり、実施している施設としていない施設があります。

## <どんな治療をするのですか>

マイコプラズマによくきく抗生物質を内服します。よくきく抗生物質はマクロライド系といいます。薬の名前として例をあげると、クラリシッド・クラリス・エリスロマイシン・ミオカマイシン・ジスロマックという名前の薬です。一般に肺炎のお子さんに処方される抗生物質はペニシリン系やセファロスポリン系といわれるもので、これらはマイコプラズマには効果ありません。有効な抗生物質を使用すると、数日で解熱しますが、咳は1～2週間かかって少なくなります。しかし、最近、マクロライド系にもきかないマイコプラズマが増えてきており注意が必要です。

## <家庭でどんな注意をする必要がありますか>

ヒトからヒトへ感染しますので、患者さんの咳やくしゃみには気をつけましょう。タオルなどを共有するのは避けて下さい。安静とバランスのよい食事をこころがけましょう。登園・登校する時期は、感染力が低下してからです。熱が下がったからといって、すぐ登校するのは感心できません。かかりつけの先生とよく相談されてからにしましょう